

石巻大川小児童74人

笑顔 野の花に包まれ

写真 全家族の元へ

東日本大震災の津波被害を受けた石巻市大川小で死亡、行方不明となっている児童74人の写真が愛らしい押し花で彩られた。遺族の一人、紫桃(しとう)

さよみさん(45)が写真を集め、市内で押し花教室を開く女性(56)が制作した。大震災の発生から11日で8カ月。紫桃さんは74人の家族すべてに「押し花写真」を届け終え、「多くの人のおかげで役割を果たせた」と感謝している。

紫桃さんは5年生だった次女千聖(ちさと)さんを津波で失った。3人きょうだいの末っ子。膝に座り、ほおを寄せてくるような甘えん坊だった。

悲しみに沈む紫桃さんに5月、姉の知人で押し花教室を開く女性から「匿名のボランティアとして、亡くなった子どもの写真を押し花で飾ってあげたい」と申し出があった。

つらくて写真を見られない紫桃さんに代わり、姉が千聖さんのほほ笑む一枚を選んだ。後日、ピンクや白の花に囲まれた写真が戻ってきた。

「過去の写真が生まれ変わったように見えた」。紫桃さんは、他の家族と押し花の先生との橋渡しをしようと決心した。

遺族、押し花の先生と共同作業

「役割を果たせた」

自宅を流失した家族も多く、避難先を捜すのは一苦勞だった。54家族すべてに連絡を取るのに約半年もかかった。

子どもの写真を失った家族のため、他の保護者から学校行事の写真や子どもの写真が入った年賀状も集めた。晴れがましい表情の卒業写真、あどけないピースサイン。津波の犠牲になった家族との写真もあった。

押し花の先生は自宅の庭に咲く草花で、押し花を作った。「写真の中の子どもが『この花がいい』と教えてくれる。対話するような、不思議な感覚だった」。教室の生徒も制作に協力し、額は所属する押し花団体が寄付してくれた。

紫桃さんが完成した写真を家族に渡しに行くと、「うちの子が好きな花ばかり」と驚く人も少なくなかった。涙で言葉が出ない人もいた。

紫桃さんもいつしか、娘の押し花写真に語り掛けるのが日課となった。

「助けられなくてごめんね」「寂しいよ。前に進みたいけど、どうしたらいいかわからないよ」

写真の中からは、こんな娘の声が届く気がする。

押し花に飾られた千聖さんの写真。おとし12月の誕生日に紫桃さんが撮影した

「お母さん、泣かないで。もう悲しまないで」

